

ご注文の際は QQS-CLT-100-22N 品番で  
お申込みください。

QQS-CLT-100-22N



22N-28199-00



初版とは表紙が異なります  
再生紙を使用しています

0408

XJ750D

取扱説明書

正しい使い方を守りましょう



ヘルメットをかぶりましょう



交通ルールを守りましょう



定められた点検整備を励行しましょう



## 取扱説明書

# XJ750D

## お客さまのよきアドバイザーとして

ヤマハ車をお選びいただきありがとうございます。この取扱説明書にはお車の正しい取り扱い方法とやさしい点検について説明してあります。お車の取り扱いを充分ご存じの方も、この車独自の装備、取り扱いがありますので、ぜひお読みくださるようお願いいたします。なお、仕様の変更などにより図や内容が一部実車と異なる場合がありますのでご了承ください。

## ● 目 次 ●

|               |    |
|---------------|----|
| ご使用の前に.....   | 2  |
| 名称と操作.....    | 3  |
| 運転と操作.....    | 26 |
| 点検と整備.....    | 29 |
| お車の手入れ.....   | 42 |
| 安全運転のために..... | 43 |
| 仕様諸元.....     | 45 |
| 電装配線図.....    | 46 |

## ご使用の前に

お車をいつまでも新車同様にお使いいただくためにも、安全面からも快適性からも、お買い上げの販売店にて「取扱説明書」、「整備手帳」により次の説明を必ずおうください。

- お車の正しい取り扱い方法
- 仕業点検・定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行(保証書裏面の記入・捺印)

整備手帳に入っております保証書はよくお読みいただき裏面の「販売店・捺印」をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点がございましたら、お早目にお買い上げの販売店にご相談ください。どんな小さな疑問にも親身になってお答えいたします。

## ● 安全項目ラベル ●

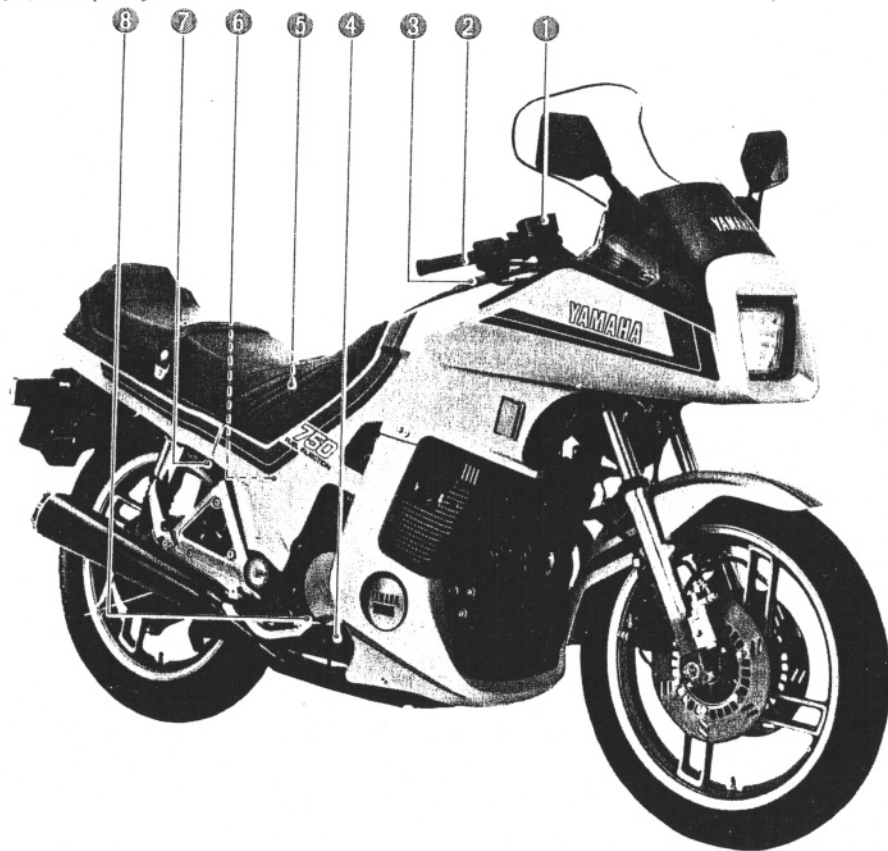
ハンドルを握る時につねに心がけなければならない注意事項を書いた「安全項目ラベル」がお車に貼ってあります。慣れや安心から忘れることのないよう、安心チェックラベルとしてお使いください。

- ヘルメットをかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。  
〈点検整備のポイント〉ブレーキ、タイヤ、オイル、ランプ類、ホーン、計器  
詳細は「整備手帳」に示してあります。  
無い場合は販売店で求め願います。

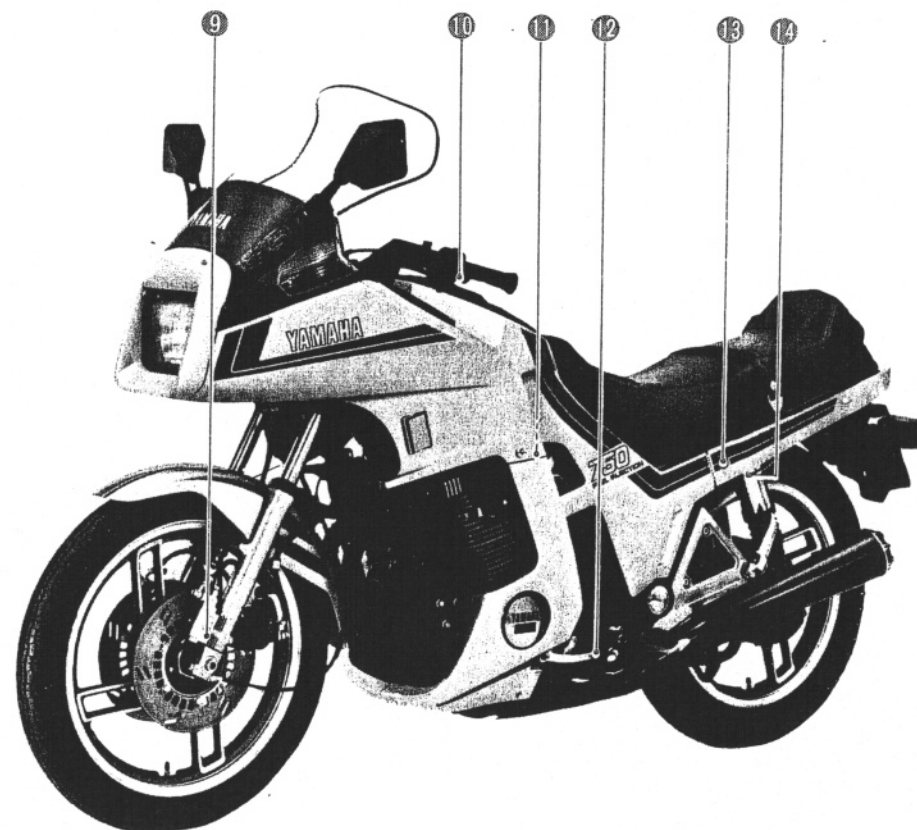
ヤマハ発動機株式会社

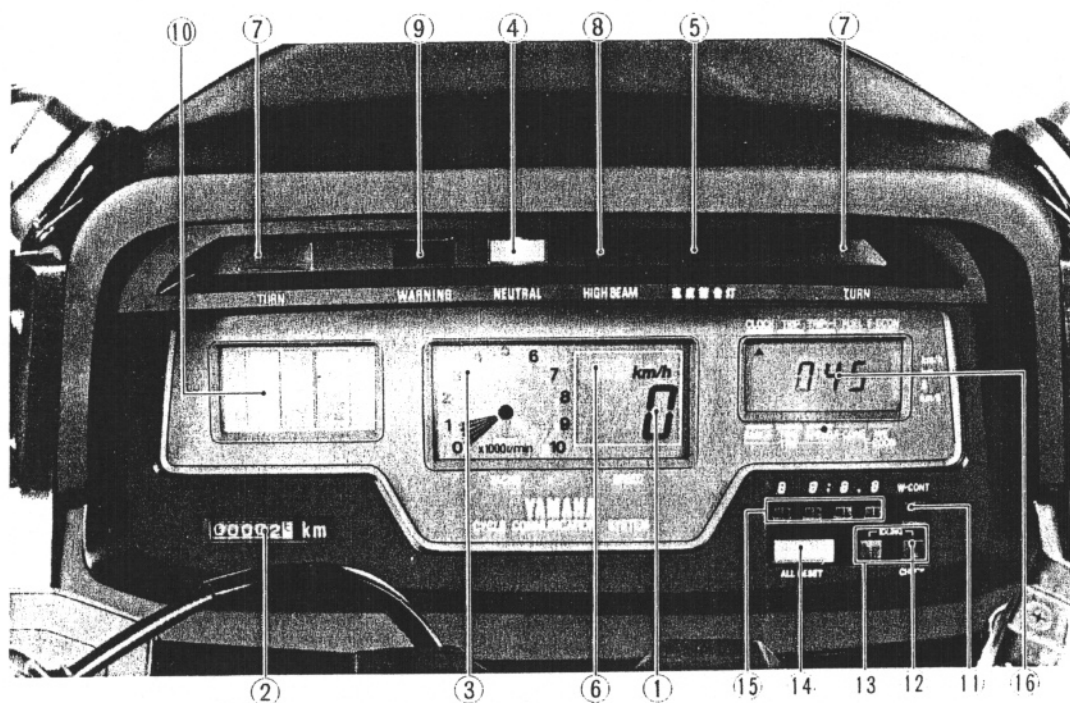
## 各部の名称

- ① ブレーキフルード点検窓
- ② ブレーキレバー
- ③ フューエルタンクキャップカバー
- ④ エンジンオイルレベル点検窓
- ⑤ フューズホルダ
- ⑥ バッテリ
- ⑦ ヘルメットホルダ
- ⑧ ブレーキペダル



- ⑨ アジャスタブル・アンチノーズダイブ
- ⑩ クラッチレバー
- ⑪ フューエルコック
- ⑫ シフトペダル
- ⑬ シートロック
- ⑭ リヤクッション調整ダイヤル





## ①スピードメータ

デジタル表示される数字は車の走っているスピードを示します。

## ②オドメータ

この車の走行した総距離をkmの単位で示します。白地に黒文字は100m単位です。オイル交換や定期点検整備の目安となります。

## ③タコメータ

1分間のエンジン回転数をサークルグラフとして液晶表示します。指針がレッドゾーンに入らないように運転してください。

## ④ニュートラルランプ (緑) NEUTRAL

チェンジがニュートラルの時に点灯します。

## ⑤速度警告灯 (赤)

車速が80~85km/h 以上になると点灯します。

## ⑥速度警報表示灯 (赤)

80~85km/h になると点灯します。(レッドゾーンの役目をします。)

## ⑦フラッシュパイロット (橙) TURN

フラッシュランプと同時に点滅します。

## ⑧ハイビームインジケータ (青) HIGH BEAM

ヘッドライトが上向き **HI** の時、点灯します。

## ⑨コンピュータモニタ警告表示灯 (赤)

## ⑩コンピュータモニタ表示部

## ⑪コンピュータモニタ警告表示灯コントロールスイッチ

## ⑫チェックスイッチ

## ⑬アイドルリング表示切替スイッチ

## ⑭オールリセットキー (時計、燃料レベル以外)

## ⑮パネルスイッチ (データインプット用)

## ⑯走行情報表示部

## コンピュータモニタ

始動時、走行時の異常を速やかに検出し、運転者の安全性を確かなものにする装置です。

### ①システムチェック

メインスイッチをONにすると、コンピュータモニタ表示部とコンピュータ警告表示灯が点灯します。これによりシステムが正常であるかを確認します。

### ②始動時チェック

エンジンを始動するとコンピュータモニタ表示部とコンピュータ警告表示灯はすべて消え、順に左上の項目から自動的にチェックしていきます。

### ③走行時チェック

走行時に異常が発生した場合は、コンピュータ警告表示灯が点滅しコンピュータモニタ表示部に異常項目を表示します。

### ④チェックスイッチ

システム及び異常の有無をチェックしたい場合は、このスイッチを押してください。②と同様、自動的にチェックを行ないます。

②③④において7つの項目のいずれかに異常がある場合、コンピュータ警告表示灯が点滅をはじめ、その項目のコンピュータモニタ表示部が浮かびあがります。この場合にはエンジンを停止して異常箇所を点検、その要因を無くすように努めてください。(サイドスタンド  のみは、収納するとコンピュータ警告表示が消えます。)

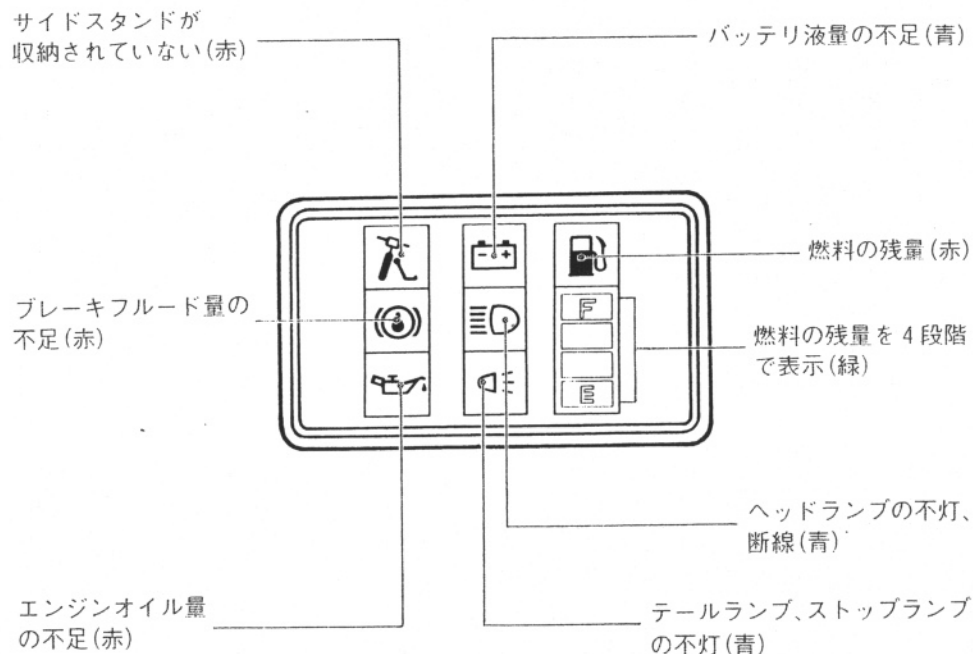
### ⑤コンピュータモニタ警告表示灯コントロールスイッチ

このスイッチはコンピュータ警告表示灯が点滅の場合、押すと点滅が止まり、再度押すと点灯が消えます。ただし、異常項目のコンピュータモニタ表示はメインスイッチを切るまで消えません。

(消灯した場合にも新たに異常が発生した場合は、コンピュータ警告表示が再び点滅をはじめます。)

## 〔コンピュータモニタ〕

(下記の場合、モニタに各項目の絵表示が浮かびあがります。)



以上の7項目を、マイコン装置で自動的にチェックできます。

## タコメータ

ノーマル表示 (×1000r/min)

1 分間のエンジン回転数は液晶表示されサークルグラフとしてデザインされます。

通常の走行では、フルスケール10000rpmで表示され、0～10000rpmまでの範囲で表示します。

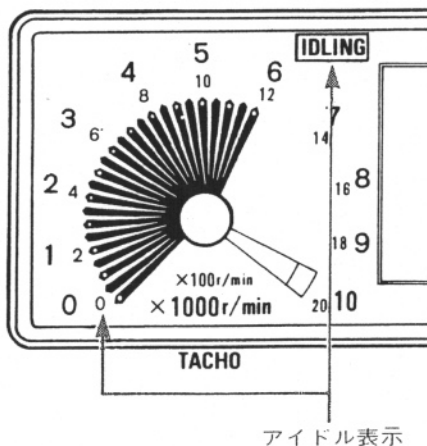
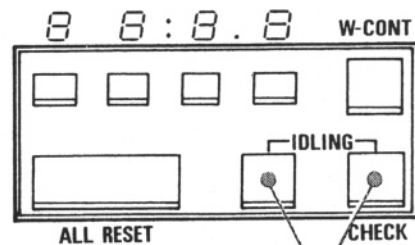
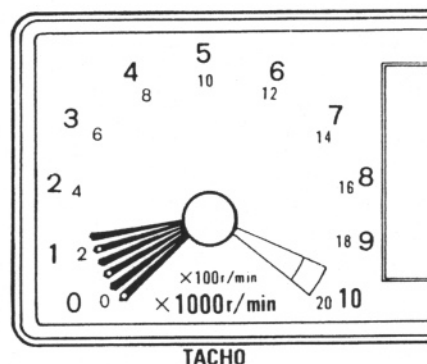
アイドル表示 (×100r/min)

アイドリング時のエンジン回転数を詳しく知りたい時は、アイドリング表示切換スイッチ、チェックスイッチを同時に押すと、タコメータはフルスケール2000rpmとなり0～2000rpmまでの範囲で表示します。

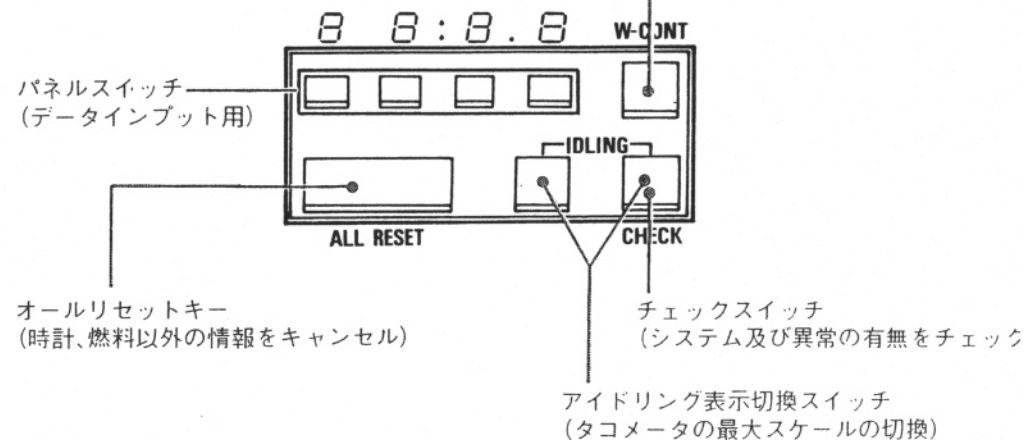
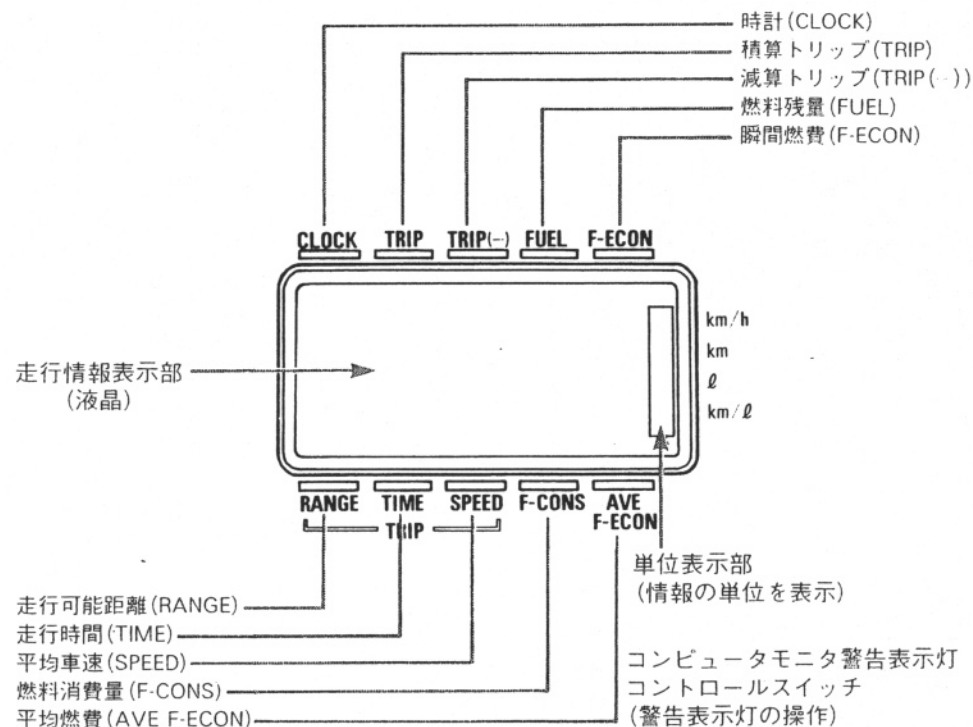
再度、アイドリング表示切替スイッチ、チェックスイッチを押すとタコメータはフルスケール10000rpmに戻ります。

又、発進するときは、必ずフルスケール10000rpm表示にします。

但し、フルスケール 2000rpm の状態で発進した場合、車速が5km/hを超えると、もとの10000rpm表示に戻ります。



## コンピュータインフォメーション



## 〔コンピュータインフォメーション〕

## パネルスイッチ

パネルスイッチキーを押すことにより、キーは数字キーとして働き、数字をインプット(数字を記憶させる)することができます。

数字のインプットはパネルスイッチで10進法で4桁までインプットでき、右の1桁は小数点以下1桁になります。

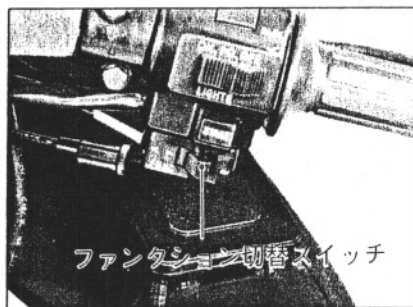
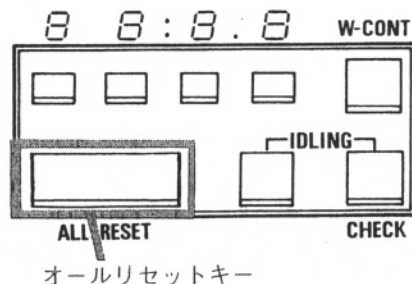
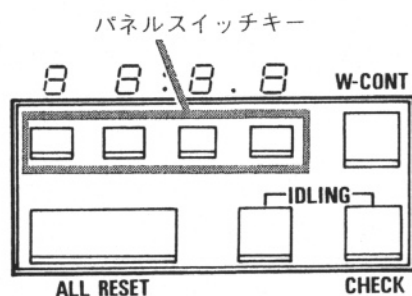
## オールリセットキー

リセットキーを押すことにより、時計、燃料レベル以外の情報をキャンセル(解除)します。

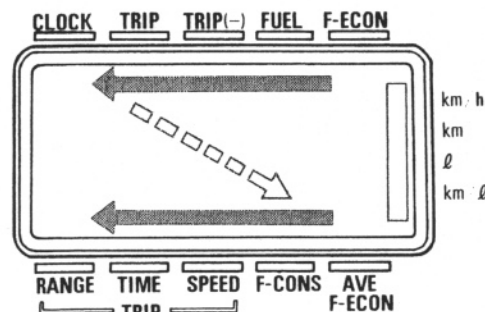
## ファンクション切替スイッチ

インプットする項目を出す時、知りたい情報の項目出しをする時はレバーホルダ右のファンクション切替スイッチを操作して項目表示を動かします。

ファンクション切替スイッチを右へ1回押すと項目表示は右回りで1項目動きます。左へ押すと項目表示は左へ動きます。



左に1回押すと項目表示は左回りで1項目動く



## 操作方法

走行前にオールリセットキーを押し、TRIP(-)のインプットが必要です。各項目の情報が表示されるとその情報の単位が単位表示部に表示されます。

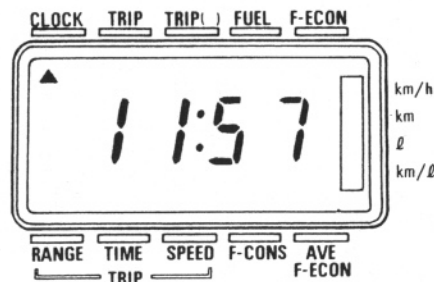
## 必ず守りましょう

情報のインプット操作は、走行中は絶対にしないこと。

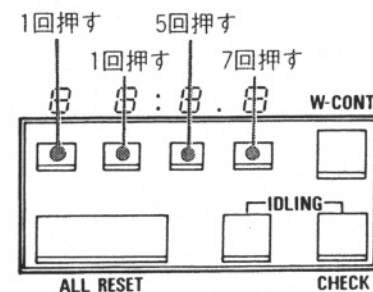
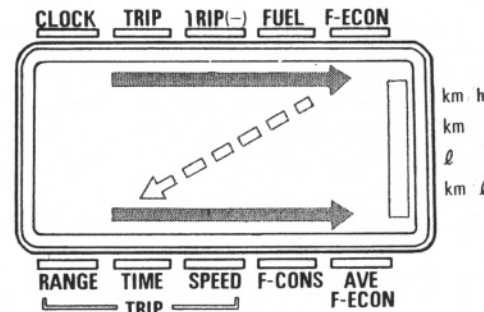
## ●CLOCK(時計)

メインスイッチを入ると項目表示はCLOCKの位置に浮び上ります。現在の時刻を12時間法でインプットします。

例: 11時57分の場合



右に1回押すと項目表示は右回りで1項目動く



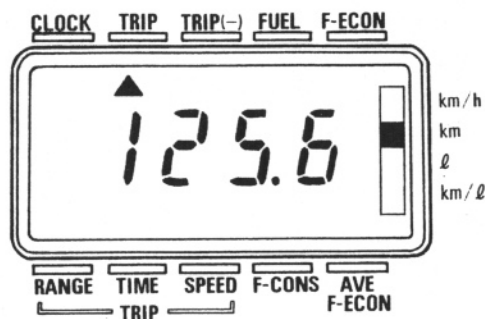
## 注意

- 押しつづけると順次数字は変化していきます。
- バッテリー上り、バッテリー取外し以外にはインプットの必要がありません。

## ●TRIP (積算トリップ)

ファンクション切替スイッチで表示項目をTRIPの位置にすると走り始めた地点からの距離が表示されます。

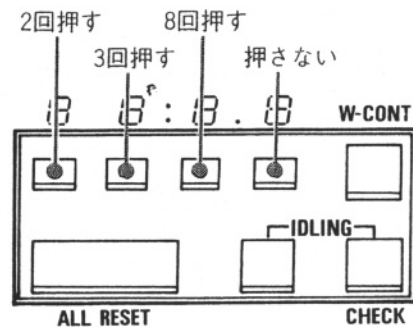
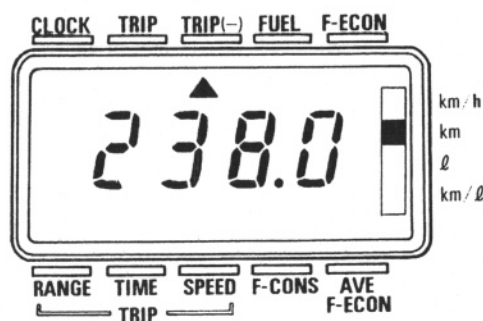
例：走り出してから125.6km走った場合



## ●TRIP(-) (減算トリップ)

ファンクション切替スイッチで表示項目をTRIP(-)の位置にして、目的地までの距離をインプットします。

例：目的地まで238.0kmの場合

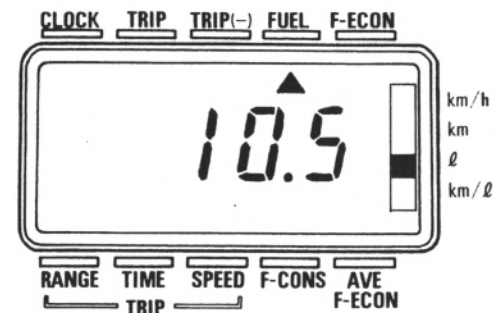


インプット後は走行するに従い距離が減っていき目的地までの距離を知らせます。

## ●FUEL (燃料残量)

ファンクション切替スイッチで表示項目をFUELの位置にすると燃料残量が表示されます。

例：燃料残量が10.5ℓの場合

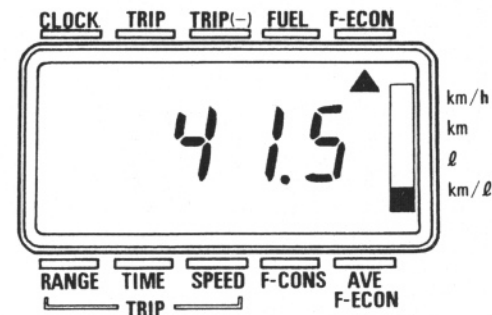


フュエルレベルは水平な場所にて直立させてみてください。  
(サイドスタンド使用時は不正確です。)

## ●F-ECON (瞬間燃費)

ファンクション切替スイッチで項目表示をF-ECONの位置にすると走行中の瞬間燃費が表示されます。

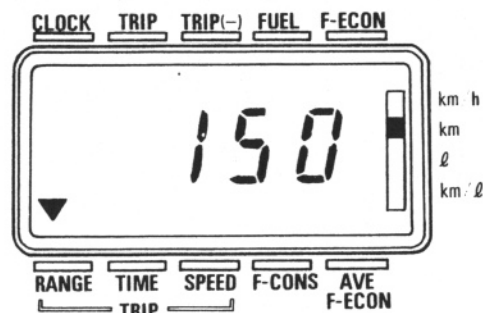
例：瞬間燃費が41.5km/lの場合



### ●TRIP RANGE (走行可能距離)

ファンクション切替スイッチで項目表示をRANGEの位置にすると、燃料残量での走行可能距離の日安となります。

例：走行可能距離が150kmの場合



エンジン停止中でメインスイッチONの時にオールリセットボタンを押すと、燃料消費量データが“0”クリアされ、演算が不可能となります。この時、走行可能距離は無意味な数値が表示されますが、エンジンがかかり燃料を消費すれば正常な走行可能距離を表示します。

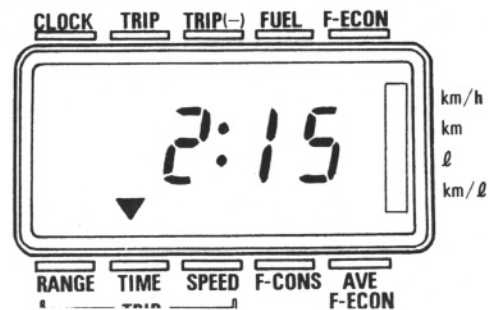
#### 注意

燃料残量が約3 l以下の場合には表示されません。

### ●TRIP TIME (走行時間)

ファンクション切替スイッチで項目表示をTIMEの位置にすると、メインスイッチをONにしていた時間を表示します。(エンジンが停止していても時間は加算されます。)

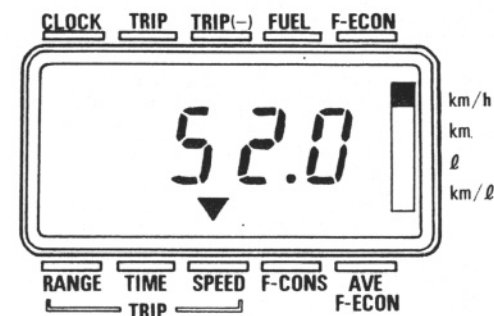
例：連続2時間走行した後15分休憩した場合、休憩時間もエンジンが始動していれば走行時間は2時間15分になります。



### ●TRIP SPEED (平均車速)

ファンクション切替スイッチで項目表示をSPEEDの位置にすると、走り始めてからの平均車速を表示します。

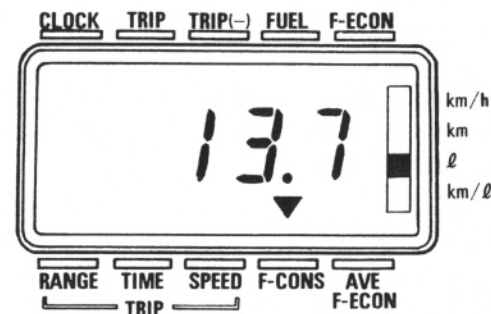
例：平均車速が52.0km/hの場合



### ●F-CONS (燃料消費量)

ファンクション切替スイッチでF-CONSの位置にすると、走り始めてからの燃料消費量を表示します。

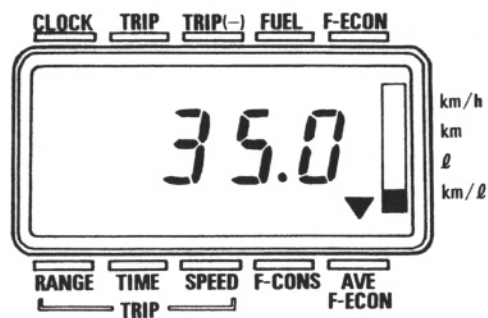
例：リセットした後、走り始めてから13.7 l燃料を消費した場合



## ● AVE F-ECON (平均燃費)

ファンクション切替スイッチでAVE F-ECONの位置にすると、走り始めてからの平均燃費が表示されます。

例：平均燃費が35.0km/ℓの場合



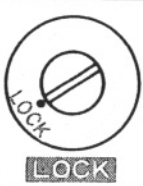
メインスイッチをOFFにしても、オールリセットボタンを押さない限り、インプットデータは解除されません。

## 注意

直射日光に長時間熱せられると液晶メータが黒くなる事がありますが、温度が下がれば正常になり、信頼性にも問題ありません。

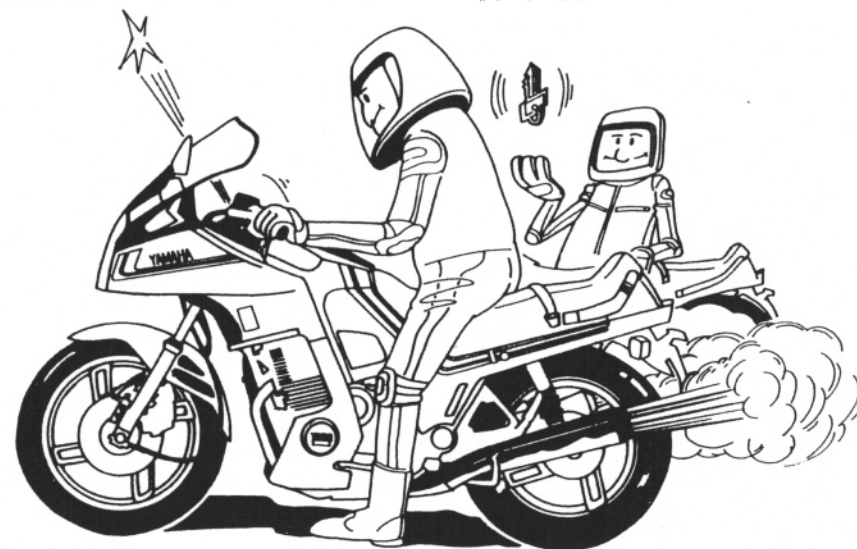
## スイッチの操作

## メインスイッチ

|   |                                                                                     |                                      |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 |  | <p>エンジン停止</p> <p>電気回路は全て切れます。</p>    |
| 2 |  | <p>エンジン始動</p> <p>キーの脱着はできません。</p>    |
| 3 |  | <p>ハンドルロック</p>                       |
| 4 |  | <p>夜間駐車<br/>ハンドルロック</p> <p>駐車灯点灯</p> |

## 注意

1の場合、コンピュータインホメーションのデータ保持回路は除きます。



## 注意

- 車から離れる時はハンドルロックをかけキーを必ず抜いてお持ちください。
- 長時間の駐車灯の使用はバッテリー上がりの原因となりますのでさけてください。

## フラッシュスイッチ(TURN)

右左折する時や進路を変更する場合は、フラッシュで早めに指示しましょう。  
曲る方向にフラッシュスイッチを入れます。

## 注意

曲り終わったら忘れずにスイッチを元へもどしてください。

## ディマスイッチ(LIGHTS)

|           |              |
|-----------|--------------|
| <b>HI</b> | ヘッドライト照射角上向き |
| <b>LO</b> | ヘッドライト照射角下向き |

## 注意

先行車や対向車がある時は、**LO** にして走行してください。

## パッシングライトスイッチ(PASS)

スイッチを押すとヘッドライト **HI** が点灯します。先行車を追い越す時など他車に対して合図をする時に使用します。

## ホーンスイッチ(HORN)

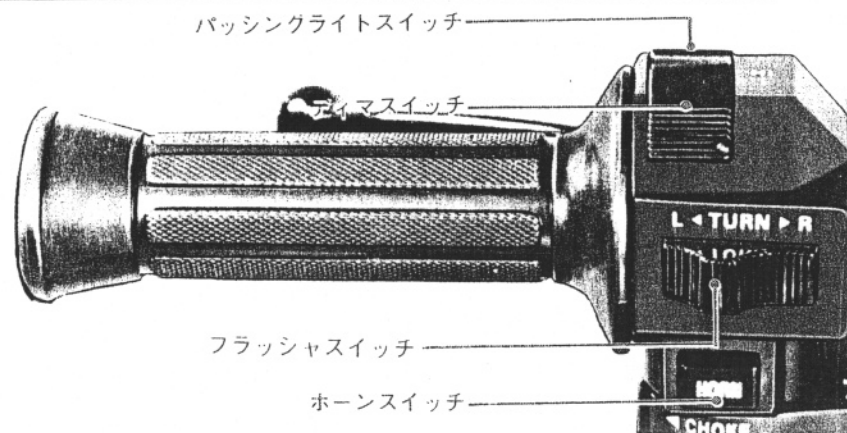
スイッチを押すとホーンが鳴ります。

## 注意

必要以外は使用しないでください。

## 必ず守りましょう

電球は正規のボルト・ワット数のものを使用してください。正規のボルト・ワット数以外のものを使用すると、球切れ、作動不良等の原因となります。



## ライトスイッチ

|            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| <b>ON</b>  | ヘッドライト、マーカランプ、テールランプ、メータランプが点灯します。 |
| <b>PO</b>  | マーカランプ、テールランプ、メータランプが点灯します。        |
| <b>OFF</b> | 消灯します。                             |

## 注意

ヘッドライトはエンジン始動後に点灯してください。

## エンジンストップスイッチ(ENGINE STOP)

突発的な非常時にエンジンを直ちに停止させるために使用します。非常時のみ使用してください。通常は、**RUN** の位置にしておきます。

## 注意

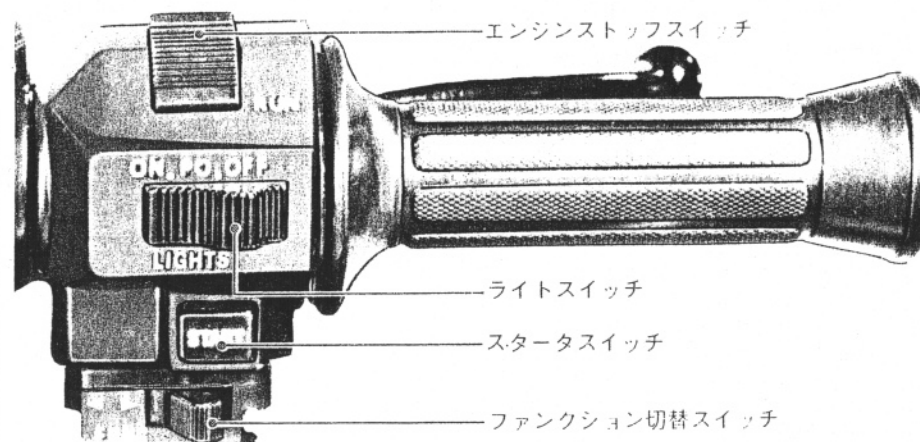
**OFF** の位置にしておくとうエンジンは始動できません。

## スタータスイッチ(START)

エンジンを始動する時に使用します。

## ファンクション切替スイッチ(FUNC)

コンピュータインホメーションの機能に知りたい情報の項目出しをする時またインブットする項目を出す時に使用します。



## ハンドルロック

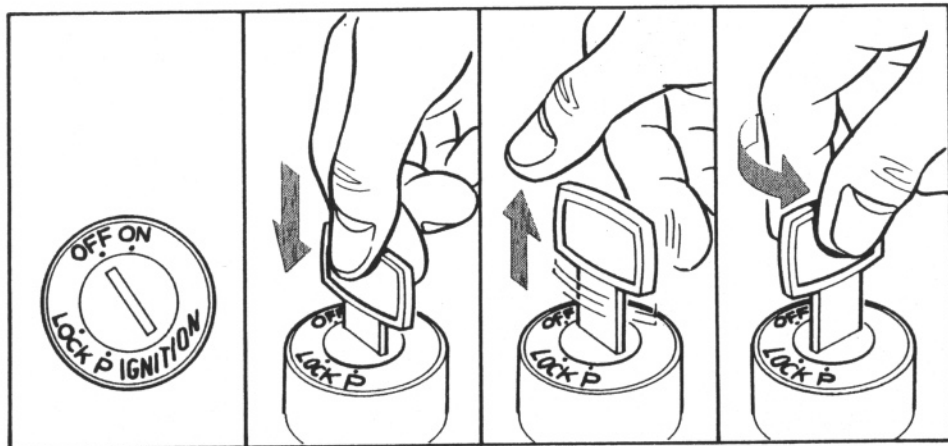
駐車の際の盗難予防のためにハンドルロックがあります。

1. ハンドルを左右のどちらかへいっぱいにする。
2. **OFF** の位置でキーを一度押し込む。
3. 手を放し、キーがもとにもどった状態で **LOCK** の位置まで〔または **P** (夜間駐車) まで〕回す。

## 注意

押し込んだままではまわりません。

4. キーを抜き取る。



## ハンドルロックの外し方

**LOCK** または **P** の位置からそのまま **OFF**、または **ON** の位置までまわします。

## 愛車を大切に

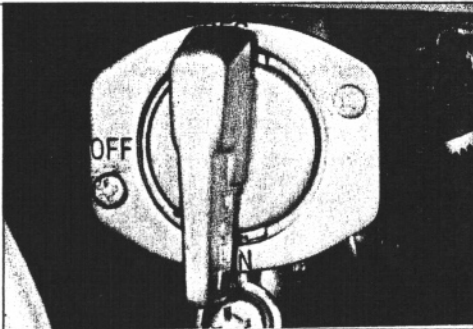
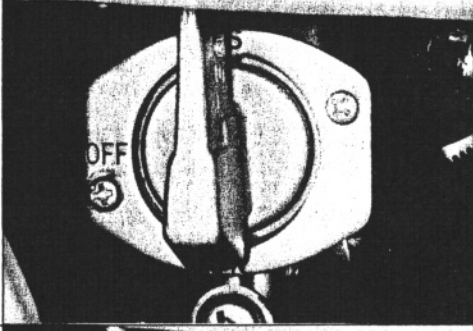
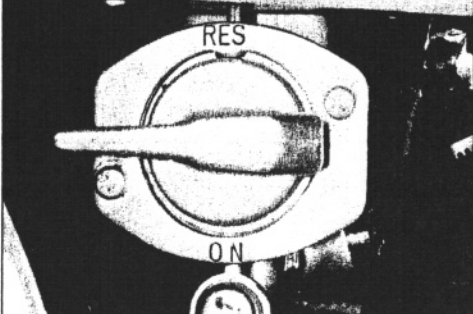
夜間駐車する場合は、キーを **P** の位置までまわしてください。なお、長時間の駐車灯の使用はバッテリー上がりの原因となりますのでご注意ください。

## 注意

- 駐車等で車から離れる時は、盗難予防のためハンドルロックまたはチェンロック(オプション)を必ずかけましょう。
- ハンドルが確実にロックされているかハンドルを左右に動かして確認してください。

## 各部の操作

## フュエルコック

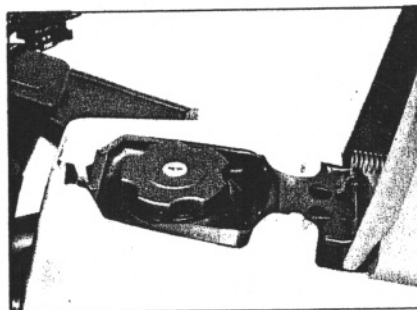
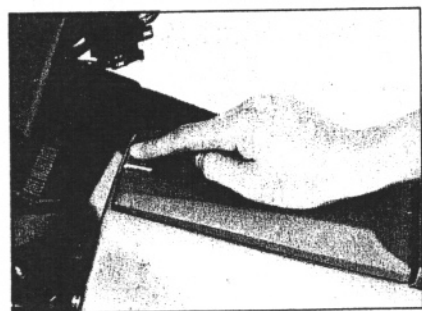
|            |                                                                                                                        |                                                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>ON</b>  | 始動および走行時のレバーの位置です。                                                                                                     |   |
| <b>RES</b> | 予備燃料のレバーの位置です。<br><b>ON</b> で走行中ガソリンがなくなったらレバーをこの位置にします。予備燃料が使用出来ませんが早めに給油してください。給油が終ればレバーを <b>ON</b> の位置に戻して走行してください。 |   |
| <b>OFF</b> | ガソリンは流れません。<br>駐車時のレバー位置です。                                                                                            |  |

## 注意

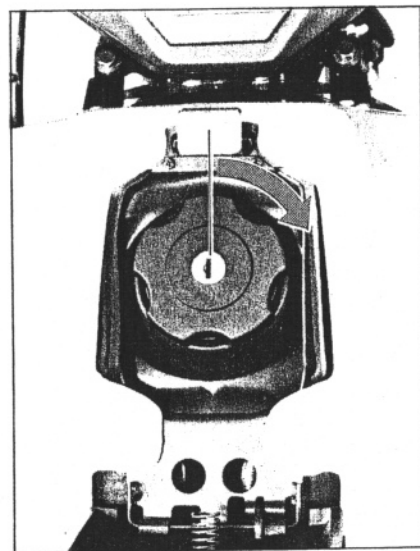
駐車の際には、レバーを必ず **OFF** の位置にしてください。

## ガソリンの給油

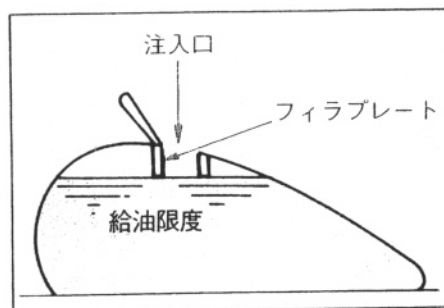
プッシュボタンを押してフュエルタンクキャップカバーを開けます。



メインスイッチキーでロックを外し、タンクキャップを開けて給油します。ガソリンは注入口にある、フィラプレート以上入れないでください。メインスイッチキーを抜きとると、タンクキャップを閉じることができません。



タンク容量……約19ℓ(予備容量含)  
使用燃料……無鉛ガソリン

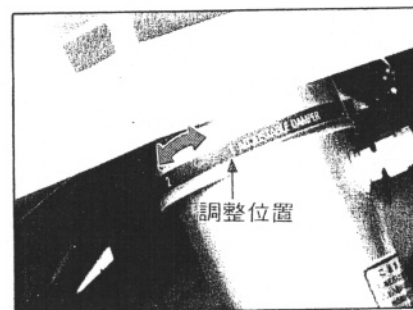


## 必ず守りましょう

給油中はエンジンを停止して火気を近づけないでください。ガソリンをフィラプレート以上に入れると、走行中ガソリンが膨張してにじみ出ることがあり危険です。こぼれたガソリンは、布などでふきとってください。

## リヤクッション調整ダイヤル

リヤクッションのダンパは各自の好みや走行状況に応じて左右同じ位置に調整してください。



ダンパの強さは4段階に調整できます。①が最小⑤がハードです。調整の場合は数字の位置を左右同じ位置に調整してください。

## 必ず守りましょう

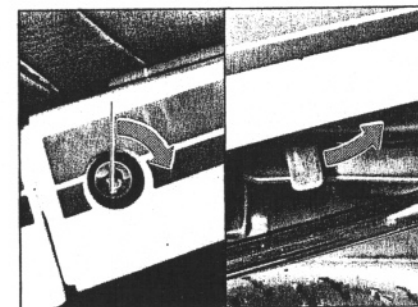
## 危険！

クッションユニットは、高圧チツ素ガス封入式を使っていますので下記のことは厳守してください。

- 絶対に分解しないこと。
- 絶対に火気の中に投げ込まないこと。
- 廃却する場合は必ずガス抜きを必要としますので、お買い上げの販売店へお渡してください。

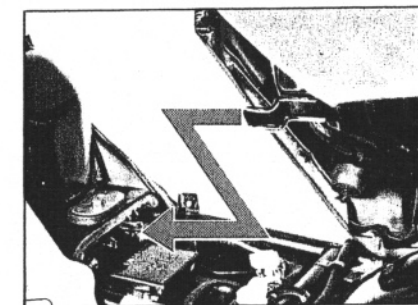
## シートの開け方

メインスイッチキーでロックを外し、レバーを引きシート後端を持ち上げてシートを取外します。



## シートの取り付け

シート前方のストッパを車体のフックに確実に入れシートの後方を上より押えてロックします。

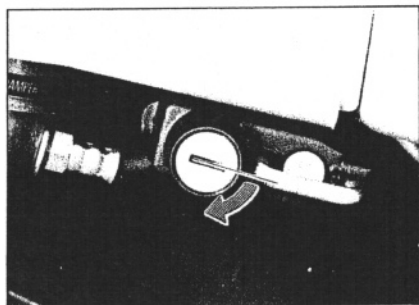


## 注意

シートの下には布きれ等を置かないでください。

## ヘルメットホルダ

メインスイッチキーでロックを外し、ヘルメットのあごひもの金具の部分を掛けてロックしてください。(駐車時)

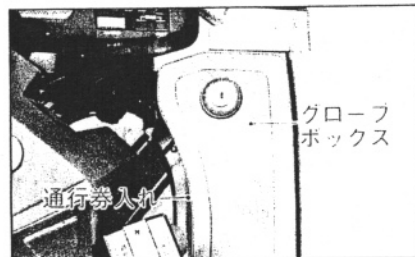


## 必ず守りましょう

ヘルメットをヘルメットホルダに付けたまま走行してはいけません。ヘルメットが運転を防げておもしろ事故のもとになります。また車の部品に損傷を与えます。ヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

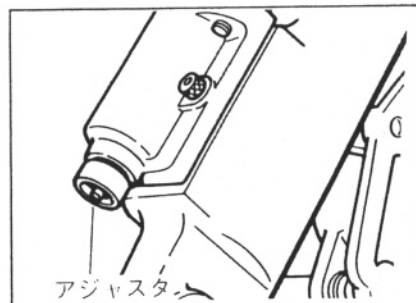
グローブボックス、通行券入れ  
小物入れ等のためにフェアリングに付いています。

グローブボックスへの許容積載重量は片側1.5kg以下です。荷物は左右均等に入れてください。またグローブボックスには通行券入れが付いています。高速道路等で使用してください。



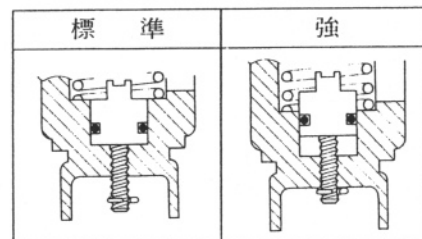
アジャスタブル・アンチノーズダイブブレーキをかけたとき、前にのめりこまないための装置です。

ゴムキャップを外すと、アジャスタがあります。左右のアジャスタを締めこみ、各自の好みや走行状態に合わせて、左右同じ位置に調整してください。



## ● アジャスタの調整方法

左右のアジャスタをⒶドライバ等で左右同じ回転数回して調整してください。



## エンジンのかけ方

1. フュエルコックが **ON (RES)** の位置にあるか確認します。
2. メインスイッチを **ON** の位置にします。
3. チェンジをニュートラルの位置にします。(ニュートラルランプで確認)

## 注意

チェンジが入っている時はクラッチレバーを握らないと始動できません。

4. エンジンストップスイッチが **RUN** の位置か確認します。

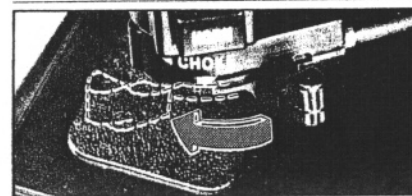
## エンジンが冷えている時

- その日初めての始動や長時間とめた後、始動する場合は次のようになります。

1. チョークレバーを左いっぱいに引きます。
2. スロットルグリップを戻します。
3. スタータスイッチを押します。
4. エンジンがかかったら、20～30秒後にチョークレバーを半分ぐらい戻して暖機運転(約2500rpm以下)を行ないます。
5. エンジンが暖まり、エンジン回転が安定した頃、チョークレバーを完全に戻します。

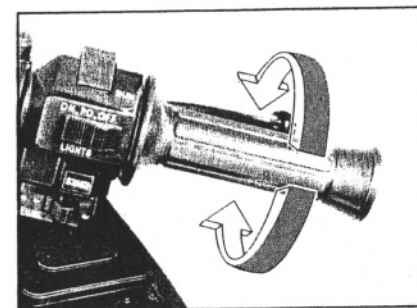
## 注意

4～5回作動してもかからない場合は、エンジンがあたたまっている時の始動方法でおこないます。



## エンジンがあたたまっている時

- エンジンを止めた後、再始動する場合は次の様にします。
- スロットルグリップを手前にすこしまわしそのままスタータスイッチを押します。



スタータスイッチを押して5秒以内にエンジンがかからない時は、バッテリー電圧を回復させるため10秒位休んでまた押してください。

## エンジンの止め方

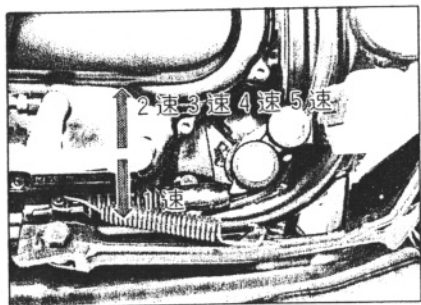
メインスイッチキーを **OFF** にするとエンジンが止まります。

## ギヤチェンジ

この車のチェンジはリターン式の5段変速です。

### チェンジのしかた

スロットルグリップを完全に戻し、クラッチレバーをしっかりと握り、シフトペダルを確実に操作します。



### 愛車を大切に

- シフトペダルは足ごたえがあるまで確実にこなってください。
- 無理にチェンジ操作を行ないますとチェンジ機構を痛める原因になりますので軽くつま先でペダル操作してください。

## 発進

フラッシュで発進の合図をします。後方の安全確認をし1速から静かに発進します。

サイドスタンドが完全に戻っているか確認してから発進してください。

## ブレーキのかけかた

スロットルグリップを戻して前後のブレーキを使用します。

エンジンブレーキを併用すれば、より強力なブレーキがかかります。

### エンジンブレーキ

走行中スロットルグリップを戻すとエンジンブレーキがかかります。

チェンジを1段戻す(シフトダウン)とさらに強力なエンジンブレーキがかかります。

### 必ず守りましょう

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこないますので注意してください。

## 駐車

メインスイッチを **LOCK** (または **P**) の位置にしてキーを抜きます。

### 必ず守りましょう

- サイドスタンドは車が止まってから出してください。
- マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。

### 愛車を大切に

交通のじゃまにならない平坦な場所に駐車してください。また、砂利道、坂道では車が不安定となり転倒するおそれがあります。

### 注意

盗難予防のため、車から離れるときはハンドルロックを必ずかけてキーを抜いてお持ちください。

## こんな時には

### ブレーキ使用上の注意

急ブレーキをかけますと横すべりや転倒の原因となる場合があります。やむを得ない場合以外はやめましょう。

雨の日や路面がぬれているところではブレーキ性能が低下します。

またすべりやすいので速度を落して余裕をもって運転しましょう。

長い坂道を下る場合に連続的なブレーキ操作は、ブレーキのオーバーヒート(フェード現象)の原因となり、ブレーキ性能を減じるのでエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作とを併用してください。

## ならし運転

初回1か月目の点検(または1,000km走行時)までは、できるだけ静かに運転してください。

エンジン回転数は4,500rpm以下で走行してください。

また不必要なからぶかしや急加速、急減速は、つつしんでください。

### 必ず守りましょう

- 排気ガスには有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所、しめきったせまい場所での始動、暖機運転はさけてください。
- ブレーキドラム内に水が入るとブレーキ性能が低下する原因となります。洗車時、ブレーキドラムに水を強くかけないでください。

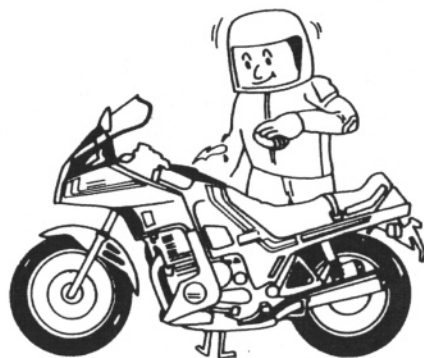
## 仕業点検と定期点検整備

安全のため、事故防止のために法律によりお車のご使用者は仕業点検と定期点検整備を必ず行なってください。

### A. 仕業点検

1日1回ご使用前にあなたが行なう点検です。

あなたの安全と、車の事故、故障を事前に防ぐため必ず実施しなければなりません。



### B. 定期点検整備

6か月、12か月ごとに行なう点検です。

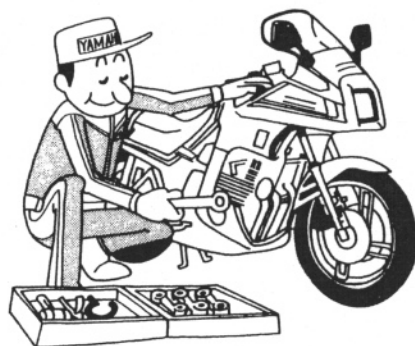
(またお買い上げの日から1か月目の初回点検もあります。)

あなたのお申しつけによりお買い上げの販売店が点検を実施します。

あなたの責任により必ず点検をお受けください。

点検項目、内容については別冊の整備手帳をご覧ください。

251cc以上は2年ごとに継続検査を期間満了前に受けなければ使用できません。必ずお受けください。



### 必ず守りましょう

定期点検整備を怠ると重大な事故、トラブルの原因となります。また保証を受けられない場合がありますからご注意ください。

## 仕業点検内容

次の点検を行ないましょう。

点検項目に不具合な点がある場合には、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

### 1) タイヤの点検

タイヤはチューブレスタイヤを使用しています。

○空気圧は正常ですか？

○亀裂、損傷、異常摩耗したものは安全のためタイヤを交換してください。金属片、石等がかみこんでいるものは取り除いてください。

### 注意

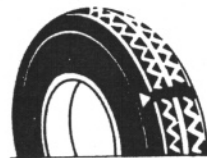
空気圧はタイヤが冷えている時に測定してください。

| XJ750D |                           |           |  |
|--------|---------------------------|-----------|--|
| タイヤ空気圧 | 前 輪                       | 後 輪       |  |
| 1名乗車   | 1.75kg/cm                 | 2.00kg/cm |  |
| 2名乗車   | 2.00kg/cm                 | 2.25kg/cm |  |
| 高速走行   | 2.00kg/cm                 | 2.25kg/cm |  |
| タイヤサイズ | 3.25H19-4PR 120 90-18 65H |           |  |
| 指定タイヤ  | 前 輪                       | 後 輪       |  |
| ブリヂストン | L303                      | G508      |  |
| ダンロップ  | F8                        | K427      |  |

この車種はチューブレスタイヤでも走行できます。ただし、パンク修理などの場合はチューブタイヤと同等の修理店へご相談ください。

この車はチューブレスタイヤを使用しています。パンク修理は、タイヤを交換し、チューブをヤマハ販売店で取り付けます。

### ・ウェアインジケータ



タイヤの溝の深さは、前後輪共0.8mm以上あるか点検します。

ウェアインジケータがでてきたときは、使用限度です。

タイヤを交換してください。

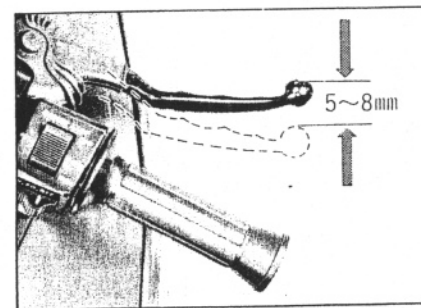
### 2) ブレーキの点検

ブレーキの遊び

〈前輪ブレーキ〉

前輪ブレーキレバーを軽く握りレバー先端部で点検します。

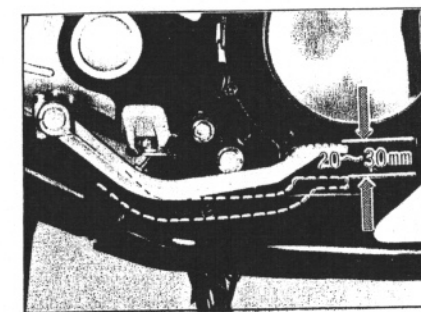
遊びは5～8mm



〈後輪ブレーキ〉

ペダルを軽く手で押して、ペダルの先端で点検します。

遊びは20～30mm



### ストップランプの点検

点検調整後ストップランプの点灯を確認します。

メインスイッチを **ON** にして前、後のブレーキを作動させそれぞれストップランプが点灯するか点検します。

## ブレーキのきき具合

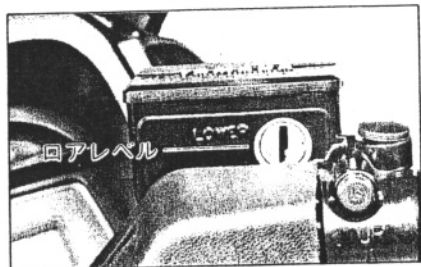
前後ブレーキ点検調整後、少し走行してブレーキのきき具合を点検します。

## 必ず守りましょう

きき具合が悪い場合は、ヤマハ販売店で、点検、調整をお受けください。

## ブレーキフルード液の点検

ブレーキフルードの量をモニタで確認してください。モニタ **⑩** の表示がついた場合には、ブレーキフルードをアップレベルまで補充してください。



指定フルード：

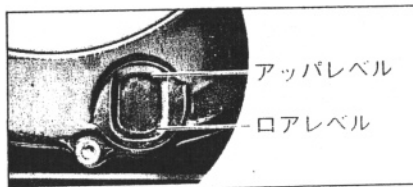
ヤマハ純正ブレーキフルード

## 愛車を大切に

- 液面はディスク・パッドの摩耗と共に下ってきます。
- 液が早く減少するようでしたらお買い上げの販売店で点検整備を受けてください。
- 他の銘柄との混合はさけてください。
- 液を塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が損傷します。
- ブレーキフルードは安全のため1年毎に交換してください。

## 3 エンジンオイル量の点検

エンジンを1～2分間アイドリングで運転後にエンジンを止めて2～3分後に点検窓にてオイル油面を点検します。油面がロアレベルに近いときはアップレベルまでオイルを補充してください。またモニタに **⑪** の表示がついた場合にもアップレベルまでオイルを補充します。



## 愛車を大切に

- 測定は車を平坦な場所でメインスタンドを立てて行ないます。
- エンジンオイル量が不足のまま運転するとエンジンがこわれる原因となります。
- 運転する前に必ずエンジンオイル量を点検し、不足している時は補充してください。

## 4 ハンドルの点検

ハンドルのゆるみ、ガタ、操作具合を点検します。メインスタンドを立てて地面より前輪を浮かせてハンドルを左右にゆっくり動かしてひっかかりはないかまた重くはないか、他の部品との接触はないか点検します。

## 愛車を大切に

ハンドルに異常があればヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

## ⑤ ガソリンの点検

ガソリントankに十分なガソリンが入っていますか？

## ⑥ フラッシュの点検

メインスイッチを **ON** にして、フラッシュスイッチを **L** または、**R** に入れ、前後のフラッシュランプが正しく点滅するか点検します。

## ⑦ テールランプの点検

メインスイッチを **ON** にして、ライトスイッチを **PO ON** に入れテールランプが点灯するか点検します。

## ⑧ ヘッドライトの点検

エンジンを始動し、ライトスイッチを **ON** にします。

デマスイッチを **HI LO** に切替えて点灯するか点検します。

## ⑨ バックミラーの点検

シートにすわって後方を確認しましょう。破損、汚れがないかも点検します。

## ⑩ スピードメータの点検

少し走ってデジタル表示されるか確認します。

## ⑪ ホーンの点検

メインスイッチを **ON** にしてホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認します。

## ⑫ フロントフォークの点検

ハンドルに力をかけてフロントフォークが正しく作動するか確認します。

## ⑬ ナンバープレートの点検

汚れ、破損がないか点検します。

## ⑭ リヤクッションの点検

シートに体重をかけて、リヤクッションが正しく作動するか確認します。

## ⑮ 排気煙の色、排気音の点検

その他、前日の運転で異常が認められたところの点検も忘れないでください。

〈定期点検整備もお忘れなく受けてください。〉

出発前の準備はできていますか？

免許証、車検証、自賠責保険証は、必ずお持ちください。

身じたくはできていますか？ 行先の地理も頭の中へ入れておきましょう。

点検が終わって異常がなければさあ出発です。

## やさしい点検・整備

お車の調子がおかしいと感じたら次の項目を点検してください。故障の原因とやさしい点検・整備の一例が示されています。それでも異常が見当たらないようでしたら、むやみに自分で修理しないで買い上げのヤマハ販売店で整備をお受けください。安全とお車を守る秘訣です。

### エンジンが始動しない場合

バッテリー上がり、バッテリー端子の汚れ、ゆるみ

スパークプラグの不良、汚れ

チョークの使いすぎ

ガソリンがフエルトankにない

### エンジンが不調の場合

エアクリーナの汚れ

エンジンオイルの過不足、不良

チョークの戻し忘れ

スパークプラグの不良、汚れ

### パワーがない・オーバーヒートの場合

クラッチ調整不良による滑り

エンジンオイルの過不足・不良

スパークプラグの不良、汚れ

ブレーキのひきずり

タイヤ空気圧の不足

### 燃料が悪い場合

エアクリーナの汚れ

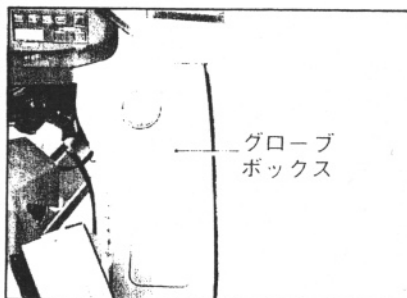
クラッチ調整不良による滑り

ブレーキのひきずり

タイヤ空気圧の不足

### サービスツール

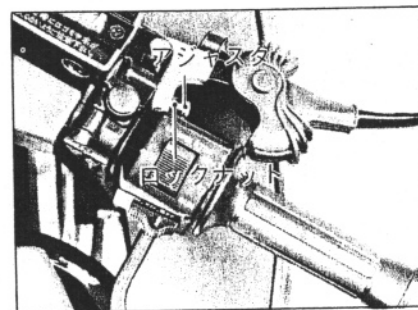
サービスツールはフェアリング右側のグローブボックスの中に入っています。



### ブレーキ調整

#### 〈前輪ブレーキ〉

レバー先端部の遊びが5～8mmになるようにロックナットをゆるめてアジャスタにて調整します。調整後ロックナットを確実に締付けます。

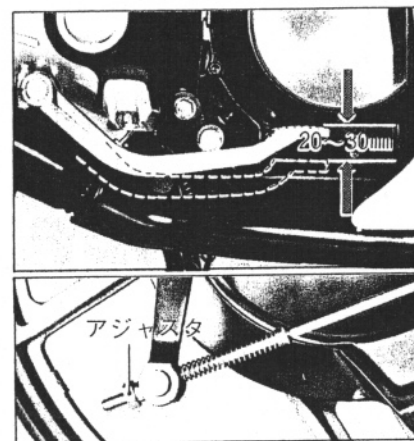


#### 注意

ストップランプの点灯を確認します。

#### 〈後輪ブレーキ〉

ブレーキペダル先端での遊びが20～30mmになるようにアジャスタにて調整します。

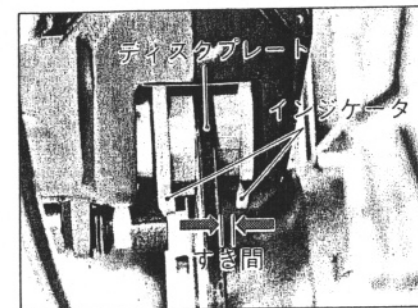


#### 注意

ストップランプの点灯を確認します。

### ディスクパッドの点検

パッドの摩耗の状態を点検します。インジケータとディスクプレートのすき間で摩耗の状態を点検します。すき間がなくなったらパッドをヤマハ販売店にて交換、整備をしてください。

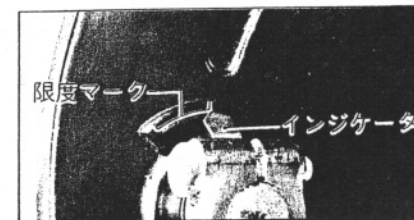


### ブレーキライニングの点検

ブレーキライニングの摩耗の状態を点検します。

ブレーキペダルを一杯に踏み込んだ時インジケータがシュープレートの限度マークを外れる時はブレーキシューの交換が必要です。

ヤマハ販売店にて交換整備をしてください。



#### 愛車を大切に

ブレーキシュー交換時はブレーキシューのリターンスプリングも同時に交換します。

## エンジンオイルの交換

## ●オイルの抜き出し

エンジン暖機運転後オイルプラグとドレンボルトを外し、オイルを抜きます。



## 必ず守りましょう

- エンジン暖機運転後の点検はエンジンやマフラーが熱くなりますので注意してください。
- 油脂類の廃液は法令で適切な処置を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。

## ●オイルの注入

ドレンボルトの汚れを落とし確実に取り付けした後、オイル注入口よりオイルを注入します。



指定オイル…ヤマハ純正 4 サイクル  
オイル

夏(5℃以上)……20W-40

冬(15℃以下)……10W-30

オイル量…約2500cm<sup>3</sup>(cc)

オイルフィルタ交換時…約2800cm<sup>3</sup>(cc)

| 気温 | -5 | 0 | 5 | 10     | 15     | 20(℃) |
|----|----|---|---|--------|--------|-------|
|    |    |   |   |        | 20W-40 |       |
|    |    |   |   | 10W-30 |        |       |

## ●オイル量の確認

規定量入ったかどうか、エンジンを1～2分間運転後エンジンを止めて2～3分後に点検窓で確認してください。

## 愛車を大切に

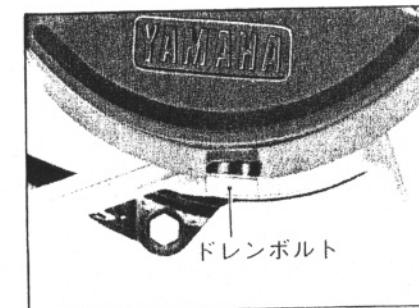
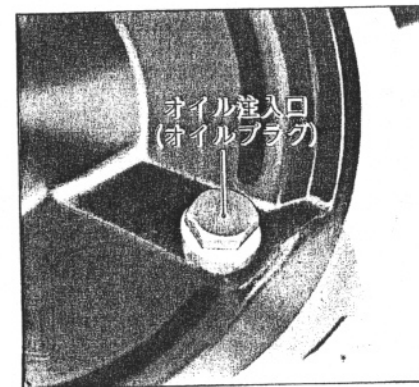
- 規定範囲内にあれば良好です。多すぎるとエンジンの回転を妨げて出力低下、オーバーヒート等の原因となります。(フリーザパイプからオイルが吹き出る場合があります)
- 少なすぎるとエンジン、ミッション、クラッチの摩耗、焼き付き等の原因となります。
- エンジンオイルには添加剤等を入れないでください。クラッチ滑りなどの原因となります。

|     |                           | エンジン<br>オイル    | オイル<br>フィルタ<br>エレメント |
|-----|---------------------------|----------------|----------------------|
| 初回  | 1か月点検時<br>または<br>1,000km時 |                |                      |
| 2回目 | 3,000km時                  |                |                      |
| 3回目 | 6,000km時                  |                |                      |
| 以降  |                           | 3,000km<br>走行毎 | 6,000km<br>走行毎       |

## シャフトドライブのオイル交換

## ●オイルの抜き出し

走行後オイルプラグとドレンボルトを外し、オイルを抜きます。



## ●オイルの注入

ドレンボルトの汚れを落とし確実に取り付けした後、オイル注入口よりオイルを注入します。

指定オイル……………ヤマハシャフト  
ドライブオイル  
(#80ハイボイドギヤオイル)  
オイル量 200cm<sup>3</sup>(cc)

## ●交換時期

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 初 回  | 1 か月点検時<br>または<br>1,000km時 |
| 2 回目 | 10,000km時                  |
| 以 降  | 10,000km時<br>走 行 毎         |

## クラッチレバーの点検・調整

## ●点検

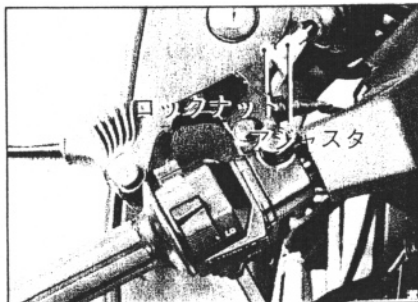
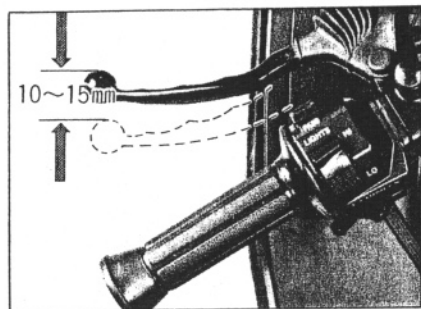
クラッチレバーを軽く握りレバー先端で点検します。

レバー先端部の遊びは10～15mm必要です。

## ●調整

ロックナットをゆるめてアジャスタにて行ないます。

調整後はロックナットを確実に締付けます。



## 愛車を大切に

- クラッチケーブルの取付部は1か月に1度は注油を行なってください。ケーブルの寿命が長くなります。
- 調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。

## ヒューズ

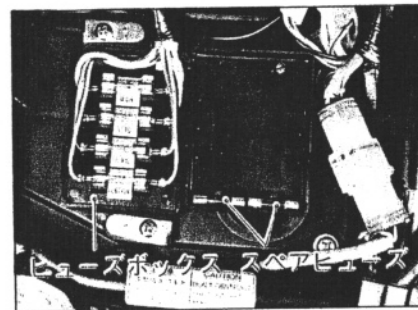
ヒューズはシート下のヒューズボックスの中にセットされています。

## 規定ヒューズ

IGNITION...10A HEAD.....10A  
MAIN .....20A SIGNAL...10A

切れた時は原因を調べて修理してから、スペアと交換しましょう。

容量の違うヒューズやヒューズ以外のもを使用しないでください。

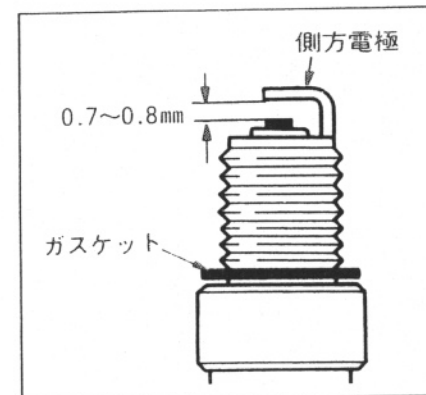


## スパークプラグ

電極が汚れたり電極のすき間が大きくなると、完全な火花が飛ばなくなります。

## ●カーボンの掃除

ワイヤブラシまたはプラグクリーナ、針金などでカーボンを落とします。



## ●電極すき間の調整

側方電極をつめてすき間を調整します。すき間は0.7～0.8mmが最適です。

## ●焼け具合(熱価)

白く焼け過ぎていたり黒くカーボンでくすぶっている場合はヤマハ販売店にご相談ください。

## ●標準プラグ

BPR7ES, BP7ES(NGK)

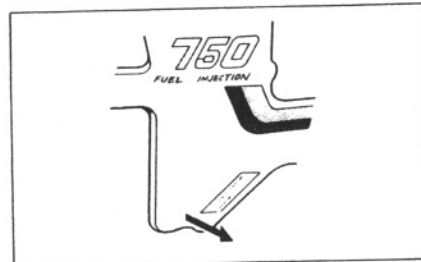
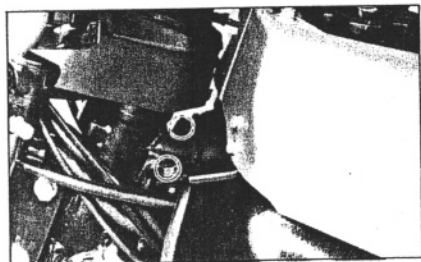
W22EPR, W22EP(N.D)

## 愛車を大切に

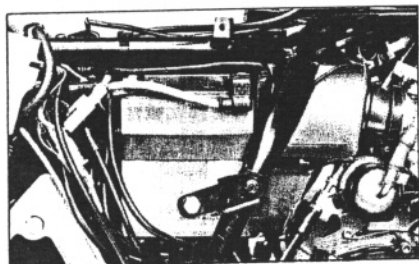
- ガスケットが変形していたり、傷があると、吹き抜けを起こしエンジン性能を低下させることがあります。必ず、ガスケットも点検しましょう。
- エンジン停止直後は熱いので火傷をしないように注意してください。
- プラグの取り付けは、ねじ山をこわさないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。

## バッテリー液の点検

ボディカウル取付ボルト4本を外し、ボディカウルを取外すと右側（ブレーキハダル側）にあります。

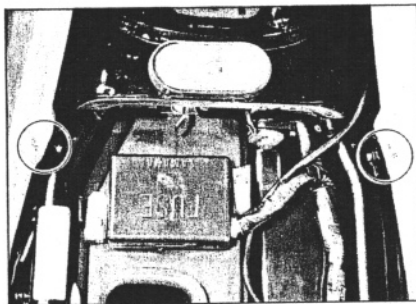


電解液がアップレベルとロアレベルの間にあるか点検してください。ロアレベルより下っている場合は蒸留水をアップレベルまで補充してください。また、ブリーザーパイプが正しく取り付けられているか注意してください。



## 注意

車が傾いていると液量は正確に計れません。



## 必ず守りましょう

## 危険！

バッテリーの取り扱いにご注意

(必ず守っていただきたいこと)

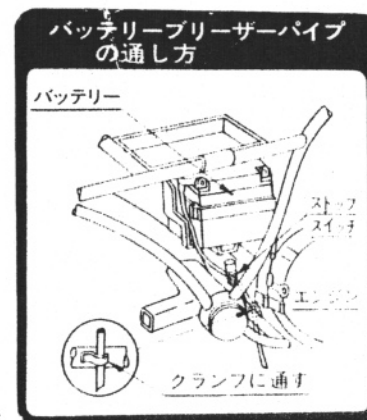
バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。

- 火気厳禁＝ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけることは危険(爆発)
- 充電は通風のよいところで＝閉めきったところでは危険(爆発)
- バッテリー液(希硫酸)に注意＝皮膚、目、衣服につくと危険(やけど、失明等)

## 応急手当

- 皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗う。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受ける。

- ブリーザーパイプの取り付け方  
バッテリーの点検時、ブリーザーパイプが正しく取り付けられているか確認してください。



## 愛車を大切に

- 液補充、補充電等でバッテリーを取り外したときは必ず車に貼付されたラベル通り正しく取り付けてください。
- ブリーザーパイプの取り回しが悪いと電解液が車体にかかり腐蝕の原因となります。
- ブリーザーパイプが折れ曲っていたり、つまっていたりするとバッテリーケースの破損原因となります。

### 定期交換部品

オートバイの部品は、すべて正常であっても時がたつにつれて変化してきます。別冊の整備手帳に示す重要保安部品は、通常の定期点検整備ではその後いつまで安全に使用できるか予測がむずかしいので一定期間を定めて交換する必要があります。機能上重要な部品ですので必ず定期交換を行なってください。詳細は別冊の整備手帳をご覧ください。

クッションユニットの取り扱いについて  
クッションユニットは絶対に分解しないでください。ユニットに異常がある場合は、お買い上げの販売店にお申しつけください。

### お車の手入れ

あなたの愛車をいつまでも長持ちさせるため手入れしましょう。すみずみまで掃除すれば気付かない疲労箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもつながります。

#### 洗車

泥等の汚れは早いうちに洗車しましょう。その時ブレーキドラムやエアクリーナ、マフラ、電装品等に水が入らないよう注意してください。洗車後は、乾いた布を使って水分をふき取ってください。グリスなどの給油も忘れずに。プラスチック部分を傷つけますので、コンパウンドの入ったワックスは使用しないでください。

#### フェアリングの使用上の注意

##### 日常のお手入れ

- 走行前、確実に取り付けてあるか、ガタ付きがないか点検してください。
- スクリーン清掃はキズを付けないように、柔らかいスポンジまたは布で石鹼液を使用し、水洗いしてください。
- スクリーンへ、ガソリン、ブレーキオイル等の化学薬品を付けないでください。
- スクリーンのヒビ割れしたものは使用しないでください。
- スクリーンの材質は JISK6735 適合のポリカーボネート板です。
- フェアリングと二輪車の間に物を置くとハンドル操作ができなくな

る場合があります。物を置かないでください。

- グローブボックスへの許容積載重量は片側 1.5 kg 以下です。荷物は左右均等に入れてください。また、走行中は開閉しないでください。

#### キャストホイールの取り扱い

##### 日常のお手入れ

週に 1 度位は中性洗剤でスポンジを使って洗いましょう。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシ等は傷がつくので使わないこと。)

洗淨後は十分に水洗いして、必ず乾いた布で水分をよく拭き取りましょう。

長時間手入れをしないで放置しますと表面だけでなく内部まで錆てしまい、元の美しさを失うことになりまますので、手遅れにならないように手入れしてください。

アルミ・キャストホイールを美しく保ち、長持ちさせるために次の注意をぜひお守りください。

- 縁石などへの乗り上げはリムに傷をつけやすいので注意しましょう。
- アルミは塩分に弱く錆ることがありますので海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、直ちに水洗いを充分しましょう。

#### 愛車を大切に

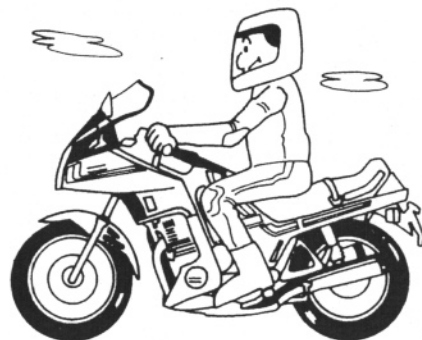
シートの下には布などを置かないでください。エンジントラブルの原因となります。

## 乗車姿勢

常にリラックスした姿勢で、かつ有事にすぐさま対応できる姿勢が理想です。

- 背すじをのばす。
- 肩の力を抜く。
- ひじをわずかに曲げる。
- タンクを両足ではさむ。

できるだけ明るい色でからだの露出が少なく動きやすいものを着用します。風にはためくものも避けましょう。疲労を少なくし、転倒してもからだを保護する役目をします。



## 乗車定員

この車の乗車定員は2名です。  
必ず守ってください。

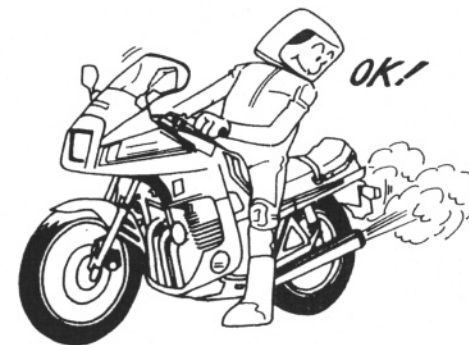
## 服装

ヘルメットはS、SGまたはJISマークのあるものを必ず着用してください。頭にシッカリ合って圧迫感のないものが最適です。  
同乗者も必ずヘルメットをかぶりましょう。



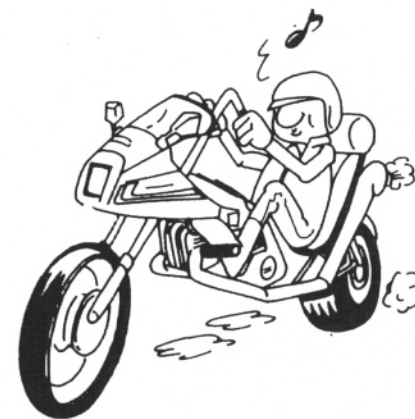
## 仕業点検・定期点検整備

あなたの安全を守るため、事故・故障を防ぐため法律に基づきお車のご使用者は仕業点検と定期点検整備を行なってください。



## 違法改造はやめましょう。

違法改造を行なうと安全性が低下して重大な事故や故障の原因となります。また他人に迷惑をかけますので法律により禁止されています。また改造車は保証の適用を除外されますのでご了承ください。



## リコールについて

通常の使用状態において走行中に人に危害をおよぼすおそれのある不具合が同一の車種に相当数発生すると予測される場合には、法律に基づきヤマハの判断と責任においてリコールを実施いたします。ヤマハがリコールを実施した時は、その車種をご利用のお客さまは、安全確保のためリコールの実施にご協力くださるようお願いいたします。

## ● 仕様諸元 ●

|        |                           |         |                             |        |
|--------|---------------------------|---------|-----------------------------|--------|
| 車名・型式  | ヤマハ22N                    | 圧縮比     | 9.2                         |        |
| 名称     | XJ750D                    | 最高出力    | 70PS/9000rpm                |        |
| 機種コード  | 22N                       | 最大トルク   | 6.2kg・m/7000rpm             |        |
| 種別     | カスタム                      | 始動方式    | セル式                         |        |
| 全長     | 2170mm                    | 点火方式    | トランジスタ点火                    |        |
| 全巾     | 730mm                     | 点火プラグ型式 | BPR7ES、BP7ES<br>W22PR、W22EP |        |
| 全高     | 1365mm                    | バッテリー容量 | 12V14AH                     |        |
| 軸間距離   | 1440mm                    | 燃料噴射型式  | 22N(YFIS)                   |        |
| 最低地上高  | 140mm                     | 燃料タンク容量 | 19ℓ                         |        |
| 乾燥重量   | 231kg                     | 使用燃料    | 無鉛ガソリン                      |        |
| 乗車定員   | 2名                        | 変速操作方式  | 左足動 リターン式                   |        |
| *定地燃費  | 43.5km/ℓ(60km/h)          | 1次減速比   | 97/58                       | 1.672  |
| 登坂能力   | 0.58( $\theta=30^\circ$ ) | 変速比 1速  | 35/16                       | 2.187  |
| 最小回転半径 | 2.7m                      | 2速      | 30/20                       | 1.500  |
| 制動停止距離 | 15m(50km/h)               | 3速      | 30/26                       | 1.153  |
| 原動機型式  | 5G8                       | 4速      | 28/30                       | 0.933  |
| 原動機種類  | 4サイクル<br>DOHC、2バルブ        | 5速      | 26/32                       | 0.812  |
| 気筒数配列  | 直列、4気筒                    | 2次減速比   | 48/37×19/18<br>×32/11       | 3.9836 |
| 総排気量   | 748cm <sup>3</sup>        | タイヤサイズ前 | 3.25H19-4PR                 |        |
| 内径×行程  | 65.0×56.4mm               | 後       | 120/90-18 65H               |        |

\*定地燃費(運輸省届出値)は定められた試験条件のもとでの値です。従って、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

